

平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査
三重県の調査結果について（概要）

I 調査の実施状況について（冊子 P. 1）

文部科学省は、調査対象として抽出した学校における小学校第5学年、中学校第2学年の全児童生徒を対象として全国的な抽出調査を行い、本県の実施状況は以下のとおりであった。

校種（全学校数）	抽出対象学校数（抽出率）	対象児童生徒数
小学校（395校）	77校（19.5%）	3,256人（18.5%）
中学校（166校）	34校（20.5%）	3,187人（18.7%）

※特別支援学校の抽出はありません。

II 調査結果（全国と三重県）について（冊子 P. 2～P. 39）

1 実技に関する調査の結果（冊子 P. 2～P. 13）

【小学校（第5学年）の平均値】

調査種目	男子			女子		
	H22年度	H22年度	H21年度	H22年度	H22年度	H21年度
	三重県	全国	三重県	三重県	全国	三重県
握力 (kg)	↑ 16.86	16.91	16.77	↑ 16.30	16.37	16.10
上体起こし (回)	↓ 17.65	19.28	18.00	↑ 16.23	17.74	16.15
長座体前屈 (cm)	↑ 32.79	32.56	32.55	↓ 36.58	36.74	36.60
反復横とび (点)	↑ 40.78	41.47	39.85	↑ 38.61	39.17	37.42
20mシャトルラン(回)	↑ 47.71	51.29	47.22	↑ 36.82	39.65	35.20
50m走 (秒)	↓ 9.48	9.38	9.43	↓ 9.74	9.65	9.73
立ち幅とび (cm)	↓ 148.53	153.44	149.95	↑ 142.07	145.20	140.83
ソフトボール投げ(m)	↓ 25.25	25.26	25.26	↑ 14.77	14.58	14.76
体力合計点※ (点)	↑ 52.84	54.36	52.83	↑ 53.42	54.89	52.80

（※体力合計点：各調査種目の成績を1点から10点に得点化して総和した合計得点）

○ 全国との平均値の比較において、男子は長座体前屈の1種目が上回り、女子はソフトボール投げの1種目が上回り、その他は下回った。

- 全国との体力合計点の比較において、男女とも、低かった。
- 昨年度の三重県の状況との比較において、体力合計点は男女とも上回った。
男子は握力・長座体前屈・反復横とび・20m シャトルランの4種目が上回り、
女子は握力・上体起こし・反復横とび・20m シャトルラン・立ち幅とび・ソフトボール投げの6種目が上回った。(上向き矢印)

【中学校（第2学年）の平均値】

調査種目	男子			女子		
	H22年度	H22年度	H21年度	H22年度	H22年度	H21年度
	三重県	全国	三重県	三重県	全国	三重県
握力 (kg)	↑ 29.45	29.70	29.32	↓ 23.75	23.88	23.76
上体起こし (回)	↓ 25.78	26.98	25.97	↓ 21.04	22.33	21.28
長座体前屈 (cm)	↑ 43.07	43.08	42.17	↑ 44.48	44.59	43.43
反復横とび (点)	↑ 50.99	51.04	50.47	↑ 45.40	44.97	44.64
持久走 (秒)	↓ 400.82	395.46	400.53	↓ 298.01	294.77	296.33
20mシャトルラン(回)	↑ 84.91	84.49	81.38	↑ 55.59	56.45	54.44
50m走 (秒)	↑ 8.00	8.04	8.10	↑ 8.91	8.90	8.97
立ち幅とび (cm)	↑ 192.95	195.37	191.07	↑ 164.53	166.63	163.72
ハンドボール投げ(m)	↓ 21.13	21.23	21.34	↓ 13.62	13.29	13.87
体力合計点※ (点)	↑ 41.08	41.71	40.45	↑ 47.69	48.14	47.12

(※体力合計点：各調査種目の成績を1点から10点に得点化して総和した合計得点)

- 全国との平均値の比較において、男子は20mシャトルラン・50m走の2種目が上回り、女子は反復横とび・ハンドボール投げの2種目が上回り、その他は下回った。
- 全国との体力合計点の比較において、男女とも、わずかに低かった。
- 昨年度の三重県の状況との比較において、体力合計点は男女とも上回った。
男子は握力・長座体前屈・反復横とび・20m シャトルラン・50m 走・立ち幅とびの6種目が上回り、女子は長座体前屈・反復横とび・20m シャトルラン・50m 走・立ち幅とびの5種目が上回った。(上向き矢印)

2 体格と肥満度に関する調査の結果（冊子 P. 14～P. 17）

○ 全国との平均値の比較において、「身長」「体重」「座高」の割合については、校種や男女の別にかかわらず、ほぼ同じであった。

「肥満傾向児出現率」は、小学校の男子はほぼ同じであり、小学校の女子・中学校の男女はわずかに低い傾向がみられた。

【小学校】

区分	男子			女子		
	肥満	正常	痩身	肥満	正常	痩身
三重県	10.5%	87.5%	2.0%	6.7%	90.8%	2.5%
全国	10.2%	87.5%	2.2%	8.1%	89.5%	2.5%

【中学校】

区分	男子			女子		
	肥満	正常	痩身	肥満	正常	痩身
三重県	6.8%	91.7%	1.5%	5.7%	90.4%	3.9%
全国	8.4%	89.9%	1.8%	7.3%	88.9%	3.7%

3 児童生徒質問紙調査の結果（冊子 P. 18～P. 33）

（1）生活習慣の状況（冊子 P.19～P.20）

校種や男女の別にかかわらず、以下の集団は、体力合計点が高い傾向がみられた。

- 朝食を毎日食べる集団（中学校女子を除く）
- 1日の睡眠時間が8時間以上の集団
- 1日のテレビ視聴時間が1時間未満の集団（小学校男子を除く）

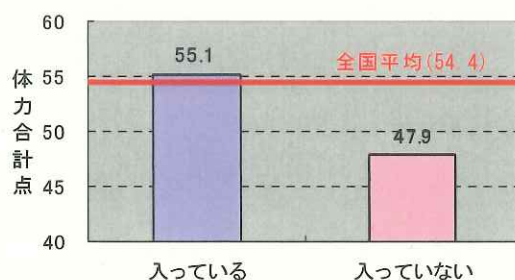
（2）運動習慣の状況（冊子 P.21～P.26）

校種や男女の別にかかわらず、以下の集団は、体力合計点が高い傾向がみられた。

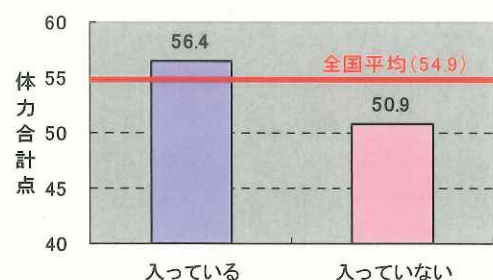
- 運動部や（地域）スポーツクラブに入って（所属して）いる集団
- 運動やスポーツをほとんど毎日（週に3日以上）している集団
- 1日の運動・スポーツの実施時間が長い集団
- 土曜日・日曜日に運動やスポーツしている集団

<運動部や（地域）スポーツクラブの所属状況と体力の関係>

【小学校】（男子）



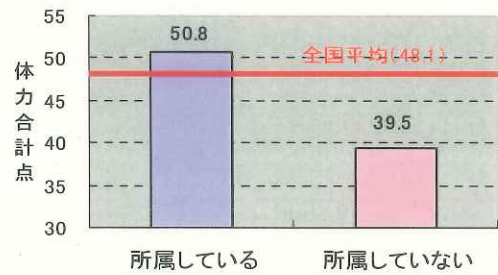
（女子）



【中学校】（男子）



（女子）

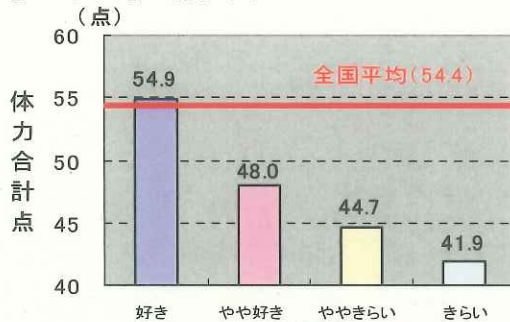


(3) 運動やスポーツに関する意識（冊子 P.27～P.29）

校種や男女の別にかかわらず、運動やスポーツをすることが「好き」「得意」「もっとしたいと思う」集団は、体力合計点が高い傾向がみられた。

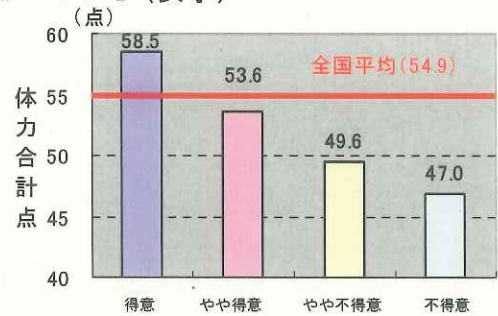
＜運動やスポーツが好き＞

【小学校】（男子）



＜運動やスポーツが得意＞

【小学校】（女子）

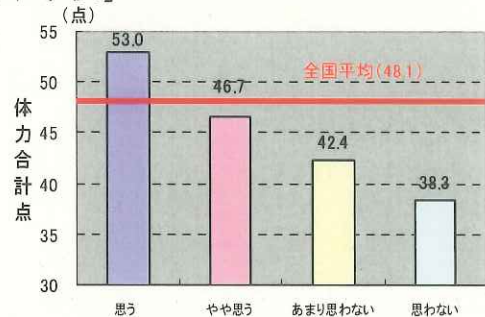


＜運動やスポーツをもっとしたいと思う＞

【中学校】（男子）



【中学校】（女子）



(4) 地域行事への参加（冊子 P.30）

校種や男女の別にかかわらず、地域行事に多く参加している集団は、体力合計点が高い傾向がみられた。

【小学校】（女子）



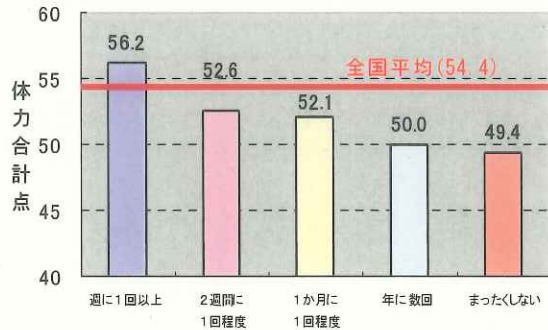
【中学校】（女子）



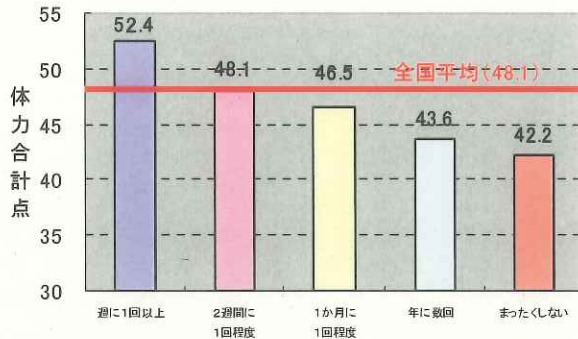
(5) 家庭における運動やスポーツとの関わり (冊子 P.31~P.33)

校種や男女の別にかかわらず、家の人と一緒に運動やスポーツを多く「する」「見る(観る)」「話す」集団は、体力合計点が高い傾向がみられた。

<運動やスポーツをする>【小学校男子】 <スポーツを見る(観る)>【小学校女子】



<運動やスポーツの話をする>【中学校女子】

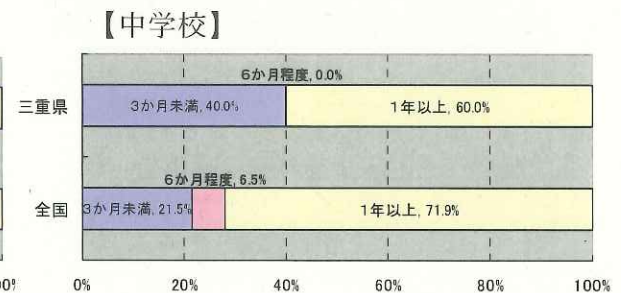
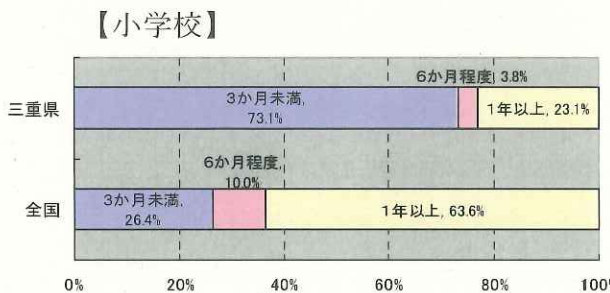
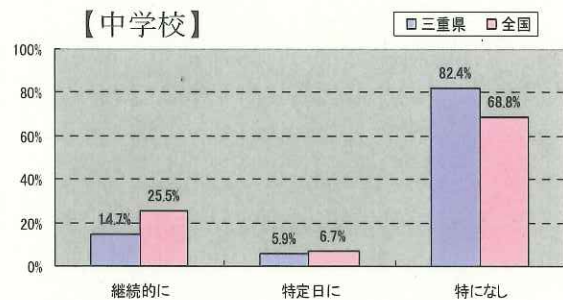
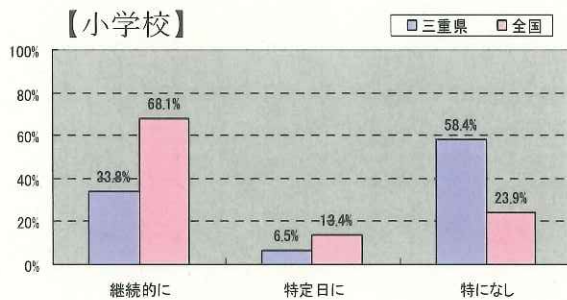


4 学校質問紙調査の結果 (冊子 P. 34~P. 39)

(1) 体育の授業以外での体力向上に係る取組 (冊子 P.34)

○全国との比較において、小学校・中学校ともに「継続的な取組をしている学校」の割合は低く、「していない」学校の割合は高かった。

また、「継続的な取組をしている学校」の期間継続状況は、小学校で3ヶ月未満が多く、中学校で1年以上が多かった。



(2) 運動やスポーツに関する近隣の学校間の連携 (冊子 P.36)

○学校間の連携先については、小学校・中学校とも同じ校種が最も高かった。

(3) 地域との連携 (冊子 P.37)

○学校の運動やスポーツに関する活動に、地域の人材を活用している学校は、全国と比較して、小学校・中学校ともに低かった。

(4) 家庭との連携 (冊子 P.39)

○家庭との連携については、小学校で「地域の運動行事の参加促進」が最も高く、中学校で「体力に関する調査の結果を家庭に連絡している」が最も高かった。

(5) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた取組 (冊子 P.39)

○平成21年度の結果を踏まえた取組 (予定を含む) では、小学校・中学校ともに「授業改善」が最も高かった。

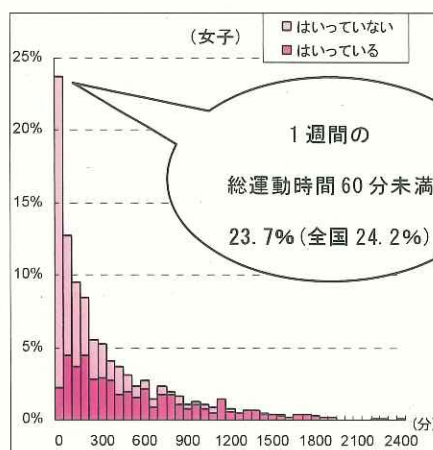
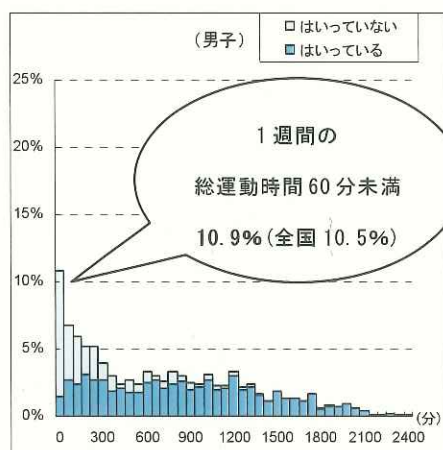
Ⅲ 調査結果の特徴について (冊子 P. 40~P. 54)

1 児童生徒の運動習慣と体力 (冊子 P. 40~P. 41)

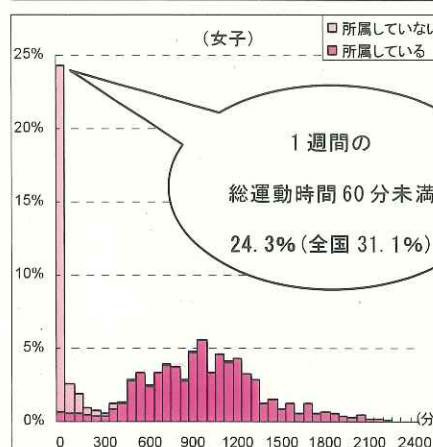
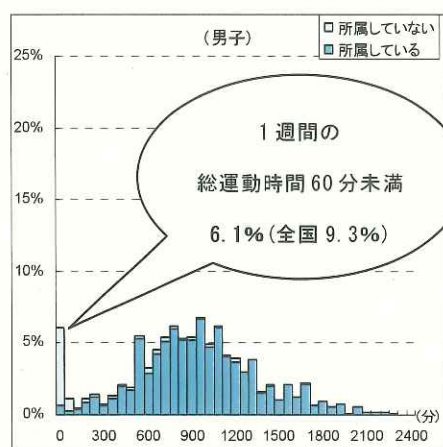
1週間の総運動時間の分布は、平成20・21年度調査と同様、小学校で運動をほとんどしていない児童が多く、中学校で二極化がみられ、特に女子においては顕著であった。

また、校種や男女の別にかかわらず、運動部や(地域)スポーツクラブへの所属の有無と大きく関連している。

【小学校】



【中学校】



2 児童生徒の体力、運動習慣、食習慣・生活習慣の変化（冊子 P. 42～P. 51）

（1）体力・運動能力（冊子 P. 42～P. 43）

体力合計点については、校種や男女の別にかかわらず、平成20・21年度に比べて、ほとんど変化はみられなかった。

総合評価（段階別）については、校種や男女の別にかかわらず、平成20・21年度に比べて、A+B+Cの割合が高かった。

（2）運動やスポーツの実施状況（冊子 P. 44～P. 46）

① 平成21年度に比べて高い

- 運動部やスポーツクラブに所属（小学校女子、中学校男女）
- 運動をほとんど毎日実施（中学校男女）
- 1日の運動時間が「2時間以上」+「1～2時間」（中学校男女）

② 平成21年度に比べてほとんど変化がみられない

- 運動部やスポーツクラブに所属（小学校男子）
- 1日の運動時間が「2時間以上」+「1～2時間」（小学校男女）

③ 平成21年度に比べて低い

- 運動をほとんど毎日実施（小学校男女）

（3）運動やスポーツに対する意識（冊子 P. 47～P. 48）

① 平成21年度に比べて高い

- 運動やスポーツが好き（中学校男女）
- 運動やスポーツが得意（中学校男女）

② 平成21年度に比べてほとんど変化がみられない

- 運動やスポーツが好き（小学校女子）

③ 平成21年度に比べて低い

- 運動やスポーツが好き（小学校男子）
- 運動やスポーツが得意（小学校男女）

（4）食習慣・生活習慣（冊子 P. 49～P. 51）

① 平成21年度に比べて高い

- 毎日朝食を食べる（中学校男女）
- 1日の睡眠時間が8時間以上（中学校女子）
- 1日のテレビ等の視聴時間3時間以上（小学校男子、中学校男子）

② 平成21年度に比べてほとんど変化がみられない

- 毎日朝食を食べる（小学校女子）
- 1日のテレビ等の視聴時間3時間以上（中学校女子）

③ 平成21年度に比べて低い

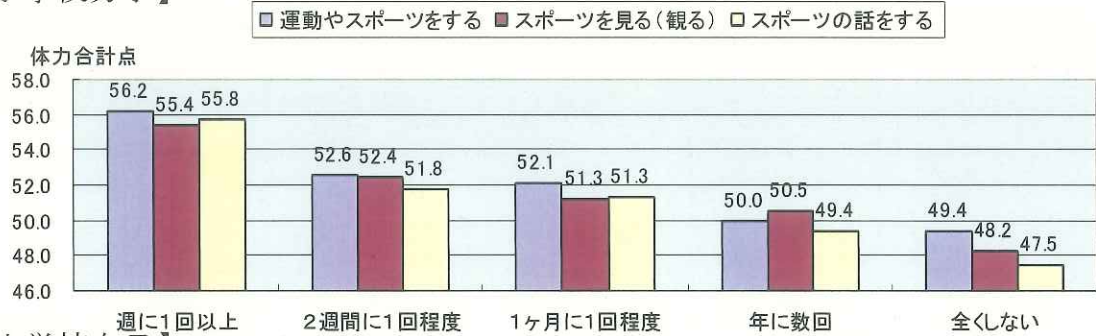
- 毎日朝食を食べる（小学校男子）
- 1日の睡眠時間が8時間以上（小学校男女、中学校男子）
- 1日のテレビ等の視聴時間3時間以上（小学校女子）

3 家庭における「する」「見る（観る）」「話す」の体力との関わり（冊子 P. 52）

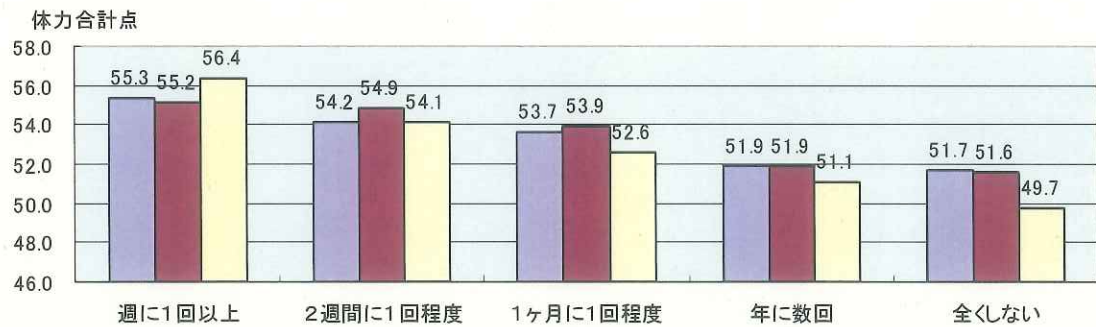
○小学校の女子・中学校の男女は、家の人と一緒に「運動やスポーツの話をする」頻度が「週に1回以上」の集団の体力合計点が最も高かった。

○小学校の男子は、家の人と一緒に「運動やスポーツをする」頻度が「週に1回以上」の集団の体力合計点が最も高かった。

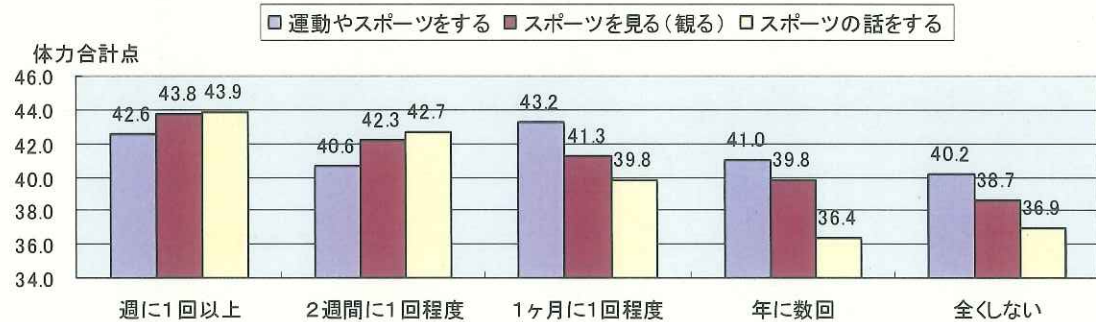
【小学校男子】



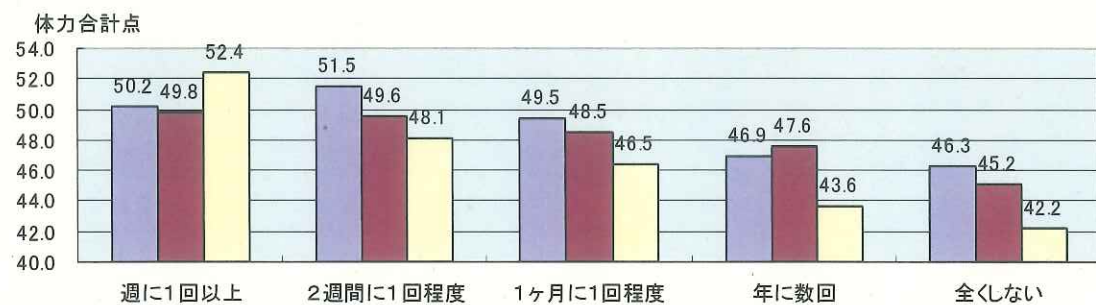
【小学校女子】



【中学校男子】

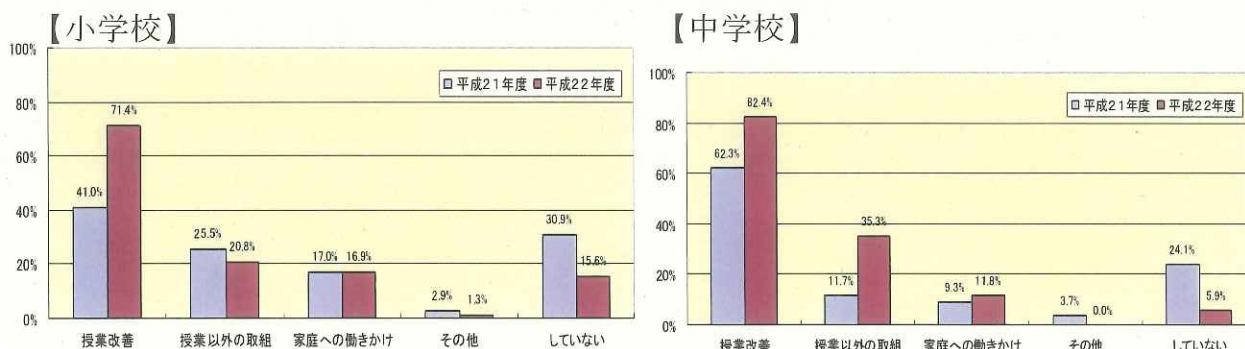


【中学校女子】



4 学校の体力向上への取組の変化（冊子 P. 53～P. 54）

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた取組については、平成21年度比べて、小学校・中学校ともに「体育の授業改善への取組」をしている学校の割合が高く、「していない」学校の割合が低かった。



【まとめ】

1 小学校5年生

(1) 状況

- ① 体力の状況は全国と比較して低く、1週間の総運動時間が60分未満の運動をほとんどしない児童の割合も高い。
- ② 学校においては、体育の授業以外で体力向上に関する取組を継続して行っている学校が少ない。

(2) 課題

- ① 子どもたちの運動機会の拡充に向けた取り組みが必要とされる。
- ② 運動やスポーツが「好き」「得意」「もっとしたいと思う」児童は、体力合計点も高い傾向にあることから、体育の授業の工夫改善が必要とされる。
- ③ 家庭における運動やスポーツとの関わりについて、家の人と一緒に運動やスポーツを「する」「見る（観る）」「話す」頻度が高いほど、体力合計点も高い傾向があることから、学校を通して、家庭における日常的な運動習慣を確立し、生涯にわたって運動に親しめるよう働きかけていく必要がある。

2 中学校2年生

(1) 状況

- ① 体力の状況は全国と比較してわずかに低いですが、運動習慣については運動部や地域スポーツクラブへの所属状況は男女とも高い。
- ② 運動をする生徒としない生徒の二極化が明確にみられ、特に女子については、1週間の総運動時間が60分未満の運動をほとんどしない生徒の割合が24.3%とほぼ4人に1人という状況である。

(2) 課題

学校において、保健体育科の授業の工夫改善により、生徒が運動やスポーツが「好き」「得意」「もっとしたいと思う」授業づくりを進めるとともに、家庭や地域と連携して、日常的に運動やスポーツをする機会の拡充を図っていく必要がある。